

翻 訳

エルケ・シュヴェート

民藝と工藝物産（クラフト）

——民藝研究の新たな方向のための考察——（6）

河 野 眞（訳・解説）

付録：アンケート調査票

アンケート1 《民藝とクラフト》取り扱い店の調査

バーデン＝ヴュルテムベルク州の民藝とクラフトの取り扱い店に向けて
《民藝とクラフト》のテーマについての調査

（回答者）姓 名 _____

（回答者）所在地 _____

アンケート送付者より調査の趣旨

今日の多くのショーウィンドウでは様々な実用工藝（Gebrauchskunst）やデコレーション用品（dekorative Gegenstände）を見ることができます。それらは職人工藝（Handwerkskunst）あるいは美術手工品（Kunsth Handwerk）やクラフト（Kunstgewerbe）と呼ばれています。これらは購入されて住まいを飾ったり、特別の贈り物として友人たちを喜ばせたりしています。

これらの売買される品々のリストをつくろうとしているものではありません。最近20年ほどについて、どんな品物が提供され、また顧客に最も喜ばれているのか、をお答えいただければ幸甚です。常に要望のあった品物があるかどうか、さらに、短期間だけの流行の品物があったでしょうか。これらについて、幾つかの質問にお答えいただきたく、お願い申し上げます。

I. はじめに一般的な質問

(違っている項目に線を引いて消して下さい)。

- a) 貴女／方のお店はどんな店名をつけていますか。たとえばよく見られる《蔵屋》
(Truhe 直訳では長持ち) あるいは《ブティック》といったもの) はい / いいえ
はい, の場合, 店名を具体的にお願いします _____
- b) 貴女／方は, どれくらい前からお店をもっておられますか (年数)。 _____ 年
- c) お店は貴女／方がつくられたのですか? はい / いいえ
それとも前からあったお店を引き継がれたのでしょうか? はい / いいえ
- d) 最近20年間でクラフト商品の売れ行きについてどう見ておられますか?
横ばい 上向き 下降気味
- e) お店の今後について, どんな見通しをもっておられますか?

II. 貴店で扱われる品物についてお答え下さい。

(違っている項目に線を引いて消して下さい)。

- a) これについて簡単な項目を用意しました。該当する種類をマークして下さい。また特に重要と考えておられることがらをご記入下さい。

テキスタイル: 壁カーペット バティック布 手織り布
衣服 枕カバー

その他の重要な品目 _____

ガラス及びセラミック: クリスタルガラス 彩色ガラス ガラス盃
彩色した農民工芸 室内プランター iファイアンス焼きのピッチャー
バイエルン風鼓型ジョッキ

*新兵ジョッキ 田舎風のコーヒー・サービス

イタリアのスープ鉢 (キャベツ形など) 陶器の時計

木製品: カッコウ時計 木皿 *デューラーの合掌 (木彫)

ロシアのマトリョーシカ エルツ山地の*クリップと鉞夫

聖者の木彫 香辛料棚 農民家具 流行家具

金属製品: 錫あるいは銅の容器 古い電話機 錠

その他: 民族衣装の人形 麦藁星 クルスマスツリー飾り

都市景観がデザインされた灰皿 *貝殻箱 彩色した電灯笠

繪葉書 オルゴール マツボックリの人形

*新兵ジョッキ: 本来は軍隊への入隊を記念するビール・ジョッキで年次も

入るが、若年兵を繪付けしたジョッキを指すようになった。

*デューラーの合掌：アルブレヒト・デューラーの素描を写した人気の図柄

*クリッペ：キリスト生誕あるいは御公現のシーンの組人形

*貝殻函：薄い木版やボール紙で作られた小箱の蓋に貝殻を貼り付けた小物入れ

- b) 貴女／方が最も売りたいと思っている品物がありますか。 はい / いいえ
はい、の場合、それについて具体的にお願いします。

III. 好みの変化について

今日、顧客の要望には変化がみられます。貴店において、流行に沿った変化がみられるかどうかについてお尋ねします。

- a) 貴女／方のこれまでの経験から、これまで一貫した人気のある品物があるでしょうか？ はい / いいえ
はい、の場合、具体的に品名を挙げて下さい。

- b) 今日、多くの人々が古い農民工藝や民藝に関心をもっています。それらへの需要について、あなたのお店で気づかれたことがらについてお答え下さい。
そうした品物がもとめられる度合い： 稀 時々ある 大変多い
これについて、どの時期にどんな品物への関心が高かったか、下の表にマークして、下さい。

	1950年代	1960年代	最近
彩色した農民セラミック			
炆器のピッチャー（*）			
農民家具			
色ガラスのグラス			
エナメル彩色のグラス			
錫のジョッキ			
その他			

*炆器のピッチャー：ヴェスターヴァルトなどで作られるものが多い

- c) 今日では昔の都市の職人工藝 (Handwerkskunst) への愛好も大きいのですが、あなた

のお店で気づかれたことがらについてお答え下さい。

そうした品物がもとめられる度合い： 稀 時々ある 大変多い

これについて、どの時期にどんな品物への関心が高かったか、下の表にマークして、下さい。

	1950年代	1960年代	最近
流行の家具			
昔の鏡			
古い錫製品			
ファイアンス焼きの器皿			
古い時計			
その他			

d) 今日、外国の物産への愛好も大きいのですが、あなたのお店で気づかれたことがらをお答え下さい。

そうした品物がもとめられる度合い： 稀 時々ある 大変多い

これについて、どの時期にどんな品物への関心が高かったか、下の表にマークして、下さい。

	1950年代	1960年代	最近
オリエントの物品 (たとえばモロッコの靴)			
皮革製品			
アジアの品物 (たとえば日本のモービル) *			
キモノ			
扇子			
北欧の木工品			
布地／衣服			
スペインの物品 (たとえば田舎風の家具)			
銅の容器			

*モービル (Mobile) : パーツが動く玩具

IV. 品物の種類

今日では、流行の品々と並んで、現代の実用工藝もみられます。たとえばバーデン=ヴェルテムベルクらしさのある美術手工品です。そうした傾向に、貴店の顧客はどんな反応をみせますか？

- a) 貴店の顧客は、現代的な設備の住まいには、モダンな実用工藝やモダンなデコレーション・グッズを好まれるのでしょうか？ はい / いいえ
- b) 貴店の顧客は、現代的な設備の住まいに、むしろアンティークや外国の物産、あるいは田舎の感じの品々を好まれるのでしょうか？ はい / いいえ

V. 今後の見通しについて

今後のことですが、特に貴店の顧客は、何に愛好が向くと思われますか。該当するものをマークして下さい。

- 農民工藝や民藝
- 歴史的な様式藝術
- エクゾチックな（外国の）品々
- モダンな美術手工品

以上です。アンケートにご協力いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

アンケート2 《民藝とクラフト》製作者の調査

バーデン=ヴュルテムベルク州のクラフトについて
《民藝とクラフト》のテーマについての調査

(回答者) 姓 名 _____

(回答者) 所在地 _____

アンケート送付者より調査の趣旨

今日、多くのショーウィンドウでは様々な実用工藝 (Gebrauchskunst) やデコレーション用品 (dekorative Gegenstände) を見ることができます。それらは職人工藝 (Handwerkskunst) あるいは美術手工品 (Kunsth Handwerk) やクラフト (Kunstgewerbe) と呼ばれています。これらは購入され、自分の住まいを飾ったり、友人を特別の贈り物として友人たちを喜ばせるためにもちいられます。

これらの品々をつくっている方々について、誰が、どんな品物を手がけておられるかを調査しています。お答えいただければ幸いです。

I. はじめに一般的な質問

(違っている項目に線を引いて消して下さい)。

a) 貴女／方はどんな品物をつくっていますか。

b) 貴女／方はいつ頃からそれを職業にしていますか？ 年数でお答え下さい。

_____年

c) 貴女／方の活動しておられる都市／村とその周辺には、他にもクラフト作家 (Kunstgewerbler) あるいは美術手工品作家 (Kunsthanderker) がおられますか？

はい / いいえ

はい、の場合、具体的にお答え下さい。

また、その方はどんな品物をつくっていますか？

II. 修行あるいは研修について

多くの職種では一定の研修を終えることが定められています。クラフト作家あるいは美術

手工品作家に場合について調査しています。

- a) 貴女／方はどんな研修を受けたことがありますか？ はい / いいえ
はい、の場合、何年間、誰に就きましたか？ 具体的にお答え下さい。

-
- b) 貴女／方は専門学校 (Fachschule), 藝術学校 (Kunstschule), あるいはクラフト専門学校 (Kunstgewerbeschule) に通いましたか？ はい / いいえ
はい、の場合、どの種類の学校でしょうか。

-
- c) 貴女／方は現在の品物の製作を職業とするにあたって、自力で習得しましたか？
はい / いいえ
はい、の場合、どんな方法だったかを具体的にお答え下さい。

-
- d) 貴女／方は貴方の職業に関係する団体に所属していますか？ はい / いいえ
はい、の場合、どの団体か、具体的にお答え下さい。

なお、貴女／方は州政府のクラフト関係部門とコンタクトをとっていますか？

はい / いいえ

貴女／方は、自分の職業について今後、どんな見通しをもっていますか？

III. 技能習得について

昔は、職業の修行や研修は父親に就くことが多かったようですが、今日では事情が変わっている面があります。貴女／方の場合についてお聞かせ下さい。

貴女／方はどこで、どのようにして現在の職業の研修を受けましたか？

- a) 貴女／方の家庭はクラフト作家 (Kunstgewerbler) あるいは美術手工品作家 (Kunsthandwerker) だったのでしょうか？ はい / いいえ
はい、の場合、貴女／方がその職業へ進んだのは主に御両親あるいは親戚の方の影響だったのでしょうか？ はい / いいえ

- b) 貴女／方が現在の職業へ進むことを、すでに若い頃に決めましたか？
はい / いいえ
はい、の場合、それは義務教育へ通っている少女／少年期だったのでしょうか？ またまたそれを選択した主な影響は何だったのでしょうか？

知人によって

はい / いいえ

親戚によって はい / いいえ
その他の影響 はい / いいえ

はい、の場合、具体的に記して下さい。

- c) 貴女／方は現在の職業へ進むことをかなり遅くなって決められたのでしょうか、言い換えるとその前に別の職業に就いていましたか？ はい / いいえ
はい、の場合、前にどんな職業に就いていましたか？ 具体的に記して下さい。
-

その場合、何がきっかけ、もしくはどんな理由で職業を変えましたか？

実用工芸作家とのコンタクト はい / いいえ
クラフト専門学校あるいはクラフト関係団体とのコンタクト はい / いいえ
この関係の専門雑誌を通じて はい / いいえ

上記のいずれかに はい、の場合、具体的には何が特に大きな意味をもちましたか？

写真やイラストを通じて はい / いいえ
実際の細工物を通じて はい / いいえ
その他の刺激によって はい / いいえ

はい、の場合、具体的には何でしたか？

IV. 自己認識について

貴女／方は自分をクラフト作家 (Kunstgewerbler) あるいは美術手工品作家 (Kunsthandwerker) と名乗っていますか？ 具体的にお答え下さい。

貴女／方はクラフト作家と美術手工品作家を同じと考えていますか？ はい / いいえ

はい、の場合、どうして同じだと思いますか？

いいえ、の場合、どうして違っていると思いますか？

最後になりますが、貴女／方がつくっておられる作品のカタログと写真を送って
いただきたく、どうかよろしく願いいたします。

質問にお答えいただき、厚くお礼申し上げます。

アンケート3 《民藝とクラフト》特に木彫り師の調査

バーデン=ヴュルテムベルク州の木彫り師について

—— 《民藝とクラフト》のテーマについての調査 ——

(回答者) 姓 名 _____

(回答者) 所在地 _____

アンケート送付者より調査の趣旨

今日、バーデン=ヴュルテムベルク地方の多くの博物館や個人の収集では、昔の職人工藝の所産が集められています。また古い仮面、クリッペのフィギュア、菓子型、装飾をほどこした戸棚、その他が展示されています。アンティーク・ショップやオークションでもこれらの品物には愛好家と購入者がみられ、時には驚くほど高値になります。しかし関心は、古い時代の遺品に限られず、今日つくられている作品も購入されています。従って私たちは、機械による大量生産にも拘わらず、再び職人工藝に魅力を感じる時代に生きているかのようです。

これらのなかには新しい木彫りも含まれますが、これについて、木彫がどのようにおこなわれ、また何が作られているかについてお尋ねしたいのです。

[訳者補記] この論者(調査者)は木彫り師(Holzschnitzer)と木彫家(Holzbildhauer)を区分している場合がある。

I. 次の質問です。なお該当しない質問項目は線を引いて消して下さい。

a) 貴女/方が今の職業に就いてどれくらいになりますか。

_____ 年

b) 貴女/方のお父さんもやはり木彫りを手がけていましたか？

はい / いいえ

貴女/方の家では、何世代にもわたって木彫りを手がけていましたか？

はい / いいえ

c) 同じ町村や近隣地域には、貴女/方の他にも木彫りを手掛けている家はあるでしょうか？

はい / いいえ

はい、の場合、誰であるか、具体的にお答え下さい。

d) 同じ町村や近隣地域には、副業として木彫りを手掛けている人はいるでしょうか？

はい / いいえ

はい、の場合、誰であるか、具体的にお答え下さい。

その人は、どんな木彫を作っていますか？ 具体的にお答え下さい。

II. 職業に関わる修行などについて

昔は、どの手仕事職人も修行をしていました。今日ではそれはすべての職種に見られるものではなくなっています。そこで質問をさせて下さい。

今日では、どのようにして木彫り師になるのでしょうか。この職業の実際はどうでしょうか。

a) 彼女／方は修行をしましたか？ はい / いいえ

はい、の場合、誰に就きましたか？ 具体的にお答え下さい。

修行をした仕事場は同じ地域でしたか？ はい / いいえ

b) 貴女／方は専門学校（Fachschule）、藝術学校（Kunstschule）、あるいはクラフト専門学校（Kunstgewerbeschule）に通いましたか？ はい / いいえ

はい、の場合、どの種類の学校でしょうか。

c) 貴女／方は現在の職業の基本を独学で習得しましたか？ はい / いいえ

はい、の場合、何か手段を活用しましたか（手引書など）？

d) 貴女／方は今の職業を自ら経営していますか？ はい / いいえ

e) 貴女／方は他の事業体に属してその職業に従事していますか？ はい / いいえ

はい、の場合、どの事業体か、具体的にお答え下さい。

f) 貴女／方は自由業のかたわら、ふるさと物産会社の注文を受けているのでしょうか？ はい / いいえ

はい、の場合、どのふるさと物産会社か、具体的にお答え下さい。

g) 貴女／方は何らかの職業に関係する団体に所属していますか？ はい / いいえ

はい、の場合、どの団体か、具体的にお答え下さい。

-
- 貴女／方は、バーデン＝ヴュルテムベルク州商工局とコンタクトをもっていますか？ はい / いいえ
- h) 貴女／方は、手仕事職人の将来をどう考えていますか？ はい / いいえ
- 貴女／方は、手仕事職人の後継者について心配をしていますか？ はい / いいえ

III. つくっている木彫の種類など

貴女／方は、木彫としてどんな作品をつくっていますか。該当するものをマークして下さい。また適宜、補足して下さい。

クリッペのフィギュア

マリア像・キリスト像・聖者像

なおその他の人物像の場合は具体的に記して下さい。 _____

仮面

土産物：たとえばⁱⁱお天気ハウス、レリーフの壁掛け、壁掛け像、糸車の模型、
その他（具体的に） _____

子供向けの玩具

道標

噴水

家具

細工物の部品（カックウ時計の付属品など）

貴女／方が主につくっている品物は何ですか？

何らかの職業に関する団体に所属していますか？

IV. 木彫りの作り方

- a) 貴女／方は自由な空想でつくっていますか、それともモデルがあるのでしょうか？
見本を使いますか？ はい / いいえ
- その見本は、彫刻あるいは写真などですか？ はい / いいえ
- 手本にする本がありますか？ はい / いいえ
- はい、の場合、どんな本ですか？ 具体的にお答え下さい。

-
- b) 貴女／方の先人にあたる人たちはどんなものをつくっていらっしゃいましたか（木彫り師の場合など）

貴女／方は先人の作品を手本にしますか？ 該当するものにマークして下さい。

絶えずそうする 時々 稀に まったくしない

- c) 貴女／方は制作にあたって機械を使いますか？ はい / いいえ
はい、の場合、どんな本ですか？ 具体的にお答え下さい。

-
- d) 貴女／方は木彫りに自分で彩色しますか？ はい / いいえ
いいえ、の場合、他の人に彩色をするためにわたすのでしょうか？
はい、の場合、だれが色付けするのですか？ 具体的にお答え下さい。

-
- e) 貴女／方は木彫りを自宅のためにつくることもありますか？（たとえば庭、住まいのため、あるいはちょっとした贈り物として） はい / いいえ
はい、の場合、どんな木彫りをしますか？ 具体的にお答え下さい。

-
- f) 貴女／方は自分が手がける品物をどう呼んでいますか？
 藝術（Kunst） 職人工藝（Handwerkskunst）
 民藝（Volkskunst） クラフト（Kunstgewerbe）

最後に、貴女／方がつくっておられる作品のカタログと写真を送っていただきたく、どうかよろしく願いいたします。

質問にお答えいただき、厚くお礼申し上げます。

訳注

- p. 92 ファイアンス焼 (Fayence) Faience / faïence と綴られる。北伊ファエンツァ (Faenza) に由来する焼き物。淡黄色の土に錫釉をかけることによってほぼ白色の器面が得られる。原理的に共通の焼き物は9世紀以前のオリエントにおいてすでに見られるが、14世紀にイタリアに定着して、15、16世紀に最盛期を迎えた後、各国でも手掛けられるようになった。オランダのデルフト焼もその一種である。1000度を少し超えるくらいの近代陶器としては低温であり、昔の民窯の趣が好まれる。
- p. 102 お天気ハウス (Wetterhaus / Wetterhäuschen) 小さな家の模型に《晴れ女》(Sonnenfrau) と《雨男》(Regenmann) の二つの人形が付けられ、天候によって自動的にどちらかが家の前に現れる仕掛け細工で湿度計でもある。人形は回転板に取り付けられ、回転板は、湿度に敏感に伸び縮みする腸弦(子羊の腸などを撚り合わせた紐)あるいは馬の毛によって動く。歴史的には、からくり師ヤーコプ・ロイポルト (Jacob Leupold 1674-1727) が1726年に制作したことが指標とされ、1735年刊の『ツェードラー百科事典』には販売されていることが記されているように、その頃から人気があった。

参考文献

A

- Theodor W. ADORNO, *Thesen zur Kunstsoziologie* (1967). In: Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie, 19 (1967), S.87-93.
- , *Ohne Leitbild. Parva Aesthetica*. Frankfurt am Main 1967 (= edition suhrkamp, 201). [邦訳] テオドル・W・アドルノ (著) 竹峰義和 (訳) 『模範像なしに：美学小論集』みすず書房 2017.
- Milton C. ALBRECHT, *Art as an Institution*. In: American Sociological Review, 33 (1968), pp. 383-397.
- Harold H. ANDERSON (Ed.), *Creativity and its Cultivation*. New York 1959.
- Siegfried ASCHE, *Zur Frage der Reiseandenken*. In: Von Domen, Mühlen und goldenen Reitern. Zusammen- gestellt von Reimar GILSENBACH und Ursula ZIELINSKI. Dresden 1955, S.33-41.
- Ferdinand AVENARIUS, *Volkskunst*. In: Der Kunstwart, 12/1 (1898/99), S.266-269, bes. S.267.

B

- Günter BANDMANN, *Das Exotische in der europäischen Kunst*. In: Der Mensch und der Künstler. Festschrift für Heinrich Lützel. Düsseldorf 1962, S.337-354.
- Ulrich BAUCHE, *Landtischler, Tischlerwerk und Intarsienkunst in den Vierlande unter der beiderstädtischen Herrschaft Lübecks und Hamburgs bis 1867*. Hamburg 1965 (= Volkskundliche Studien, 3).
- Hermann BAUER (Hg.), *Kunstgeschichte und Kunsttheorie im 19. Jahrhundert*. Berlin 1963 (= Probleme der Kunstwissenschaft, 1).
- Hermann BAUSINGER, *Volkskultur in der technischen Welt*. Stuttgart 1961. [邦訳] ヘルマン・パウジンガー (著) 河野 (訳) 『科学技術世界のなかの民俗文化』文楫堂 2005.
- , *Volkskultur und industrielle Gesellschaft*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Alterumskunde, 6

- (1962), S.5–19.
- , *Zur Kritik der Folklorismuskritik*. In: Polulus revisus. Beiträge zur Erforschung der Gegenwart. Tübingen 1966 (= Volksleben, 14), S.61–72.
- , *Kritik der Tradition*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 65 (1969), S.232–250.
- Walter BENJAMIN, *Das Kunstwerk im Zeitalter seiner technischen Reproduzierbarkeit. Drei Studien zur Kunstsoziologie*. 2.Aufl. Frankfurt 1968 (= edition suhrkam, 28). [邦訳] W. (=ヴァルター) ベンヤミン (著) 川村二郎・他 (訳) 『複製技術時代の芸術』紀伊國屋書店 1965 (芸術論叢書) ; ヴァルター・ベンヤミン (著) 佐々木基一 (編集解説) 『複製技術時代の芸術』晶文社 1970 (ヴァルター・ベンヤミン著作集 2)
- Max BENSE, *Aesthetica*. 3 Bde. Stuttgart 1954, Krefeld und Baden-Baden 1956/58.
- , *Einführung in die informationstheoretische Ästhetik. Grundlegung und Anwendung in der Testtheorie*. Reinbek bei Hamburg 1969 (=rde, 320).
- Alois BERGMANN, *Imitationen von Votivtafeln, Hinterglasbildern und Eisenvotiven als Souvenirs*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1962, S.217f.
- Heide BERNDT - Alfred LORENZER - Klaus HORN, *Architektur als Ideologie*. Frankfurt 1968 (= edition suhrkamp, 243).
- Hellmuth BETHE - Heinrich LOEW, *Kunst im Handwerk*. Leipzig 1954.
- Oto BIHALJI-MERIN, *Das naive Bild der Welt*. Köln 1959 (= DuMont Dokumente, III: Kultur und Geschichte).
- Max BILL, *Form. Eine Bilanz über Formentwicklung um die Mitte des 20. Jahrhunderts*. Basel 1952.
- Mary BLACK - Jean LIPMAN, *American Folk Painting*. New York 1967.
- Josef BLAU, *Unsere Bastler und Holzschnitzer*. In: Zeitschrift für österreichische Volkskunde, 20 (1914), S.89–106.
- , *Alte Bauernkunst in deutscher Schul- und Volkserziehung. Heimatschutz und Wohlfahrtspflege*. 2.verm.Aufl. Wien - Prag - Leipzig 1922.
- Franz BOAS, *Primitive Art*. Oslo 1927 (= Institut für sammenlignende kulturforskning, Bd.8). [邦訳] フランツ・ボアズ (著) 大村敬一 (訳) 『プリミティヴアート』言叢社 2011.
- Philipp BOCH, *Kulturschöpferische Gestalten aus dem arbeitenden Volke. Eine sozial-psychologische Untersuchung*. Vervielf. Diss. Heilberg 1932.
- Wilhelm BODE, *Kunst und Kunstgewerbe am Ende des Neuzehten Jahrhunderts*. Berlin 1901.
- Paul BOMMERSHEIM, *Ist Volkskunst ästhetisch zu betrachten? Ein heimatphilosophischer Beitrag zur Volkskunde*. In: Hessische Blätter für Volkskunde, 39 (1941), S.68–75.
- Walter BORCHERS, *Kirche und Volkskunst in Westfalen*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 54 (1958), S.239–252.
- Ernest G. BORMAN, *Theory and Research in the Communicative Arts*. New York 1965.
- Helmuth Theodor BORMAN, *Volkskunst in Europa*. Berlin 1926.
- Wilhelm BRAUN-FELDWEG, *Normen und Formen industrieller Produktion*. Ravensburg 1954.
- , *Gestaltete Umwelt. Haus, Raum, Werkform*. Berlin 1956.
- , *Industrial Design heute. Umwelt aus der Fabrik*. Reinbek bei Hamburg 1966 (rde, 254/255).
- Ernest Wilhelm BREDT, *Aphorismen zur Bauernkunst*. In: Dekorative Kunst, 13 (1905), S.366–370.

- Gustav BRITSCH, *Theorie der bildenden Kunst*, hrsg. von Egon KORNMAN. 2.Aufl. München 1930.
- Wolfgang BRÜCKNER, *Hinterglasmalerei*. In: Keyser's Kunst und Antiquitätenbuch, Bd.3. München 1967, S.69–99.
- , *Expression und Formel in Massenkunst. Zum Problem des Umformens in der Volkskunsttheorie*. In: Anzeiger des Germanischen Nationalmuseums, 1968, S.122–139. [邦訳] ヴォルフガング・ブリュックナー (著) 河野 (訳) 「大衆藝術の表現と型 —— 民藝理論におけるフォルム変形問題に向けて」 河野 (著・編) 『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』(創土社 2017) 所収
- , *Kleinbürgerlicher und wohlstandsbürgerlicher Wandschmuck im 20. Jahrhundert. Materialien zur volkstümlichen Geschmacksbildung der letzten hundert Jahre*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 12 (1968), S.35–66.
- Wolfgang BRÜCKNER - Christa PIESKE, *Trivialer Wandschmuck der zweiten Hälfte des 19. Jahrhunderts. Aufgezeigt am Beispiel einer Bilderfabrik*. In: Anzeiger des Germanischen Nationalmuseums, 1967, S.117–162. Heinrich BURKHARDT, *Volksbrauch und Volkskunst*. In: Die Schweiz. Eigenart und Weltverbundenheit, hrsg. von Emil EGLI. Konstanz 1958, S.151–176.

C

- Holger CAHILL, *Amerikan Folk Art*. In: American Folk Art. The Art of the Common Man in America. 1750–1900. Exhibition of the Museum of Modern Art. New York 1932, pp. 3–28.
- Erwin Ottomar CHRISTENSEN, *American Crafts and Folk Arts*. Washington 1964 (= American Today Series, 4)
- Herbert CLAUSS, *Bergmännische Arbeitsvorgänge in volkskünstlerischer Gestaltung*. In: Deutsches Jahrbuch für Volkskunde, 3 (1957), S.407–446.
- Walter CRANE, *The Claims of Decorative Art*. Boston 1892.

D

- Wilhelm von DEBSCHITZ, *Die Lazarett-Arbeiten in Hannover unter Leitung von Wilhelm von Debschitz*. In: Dekorative Kunst, 27 (1919), S.205–209.
- Bernward DENEKE, *Die Entdeckung der Volkskunst für das Kunstgewerbe*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 60 (1964), S.168–201. [邦訳] ベルンヴァルト・デネケ (著) 河野 (訳) 「民藝の発見と藝術産業」 愛知大学語学教育研究室 『言語と文化』 第30号 (2013), pp. 81–130. — 河野 (著・編) 『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』(創土社 2017) に「民藝の発見と工芸物産 (クラフト)」として収録.
- , *Bauernmöbel*. In: Keyser's Kunst und Antiquitätenbuch, Bd.3. München 1967, S.13–40.
- , *Beziehungen zwischen Kusthandwerk und Volkskunst um 1900*. In: Anzeiger des Germanischen Nationalmuseums, 1968, S.140–161.
- Walter DEXEL, *Hausgerät, das nicht veraltet. Grundsätzliche Betrachtungen über die Kultur des Tischgerätes. Versuch einer Geschmackserziehung an Beispiel und Gegenbeispiel*. 3.Aufl. Ravensburg 1946.
- , *Unbekanntes Handwerksgut*. Berlin 1935.
- Kurt DINGELSTEDT, *Volkskunst*. In: Deutsches Volkstum. Monatsschrift für das deutsche Geistesleben, 17 (1935), S.200–207.

- , *Kunst und Handwerk. Gedanken über das Handwerk von Möser bis Gropius*. Hamburg 1948.
- , *Jugendstil in der angewandten Kunst*. Braunschweig 1959 (=Brevierreihe).
- Wolf DOHRN, *Handwerkskunst und Sozialpolitik*. In: Patria. Jahrbuch der „Hilfe“, 1908, S.124–135.
- Jean DUVIGNAUD, *Kunstsoziologie*. In: Gottfried EISERMANN, Die Lehre von der Gesellschaft. Ein Lehrbuch der Soziologie. 2.Aufl. Stuttgart 1969, S.382–413.

E

- Richard EGENTER, *Kitsch und Christenleben*. Ettal 1950.
- Herbert von EINEM, *Über Kunst und Kitsch*. In: Sammlung, 3 (1948), S.237–239.
- T. S. ELIOT, *Zum Begriff der Kultur*. Reinbek bei Hamburg 1961 (rde, 136).
- Wolfgang EMMERICH, *Germanistische Volkstumsideologie. Genese und Kritik der Volksforschung im Dritten Reich*. Tübingen 1968.
- Oswald A. ERICH, *Der Anteil der Kunstgeschichte an der Erforschung unseres Volkstums*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 41 (1931), S.1–14.
- , *Volkskunst und Volksindustrie*. In: Wilhelm PESSLER, Handbuch der deutschen Volkskunde. Bd.3. Potsdam 1935, S.17–56.
- , *Ein Gestaltungsprinzip der Volkskunst*. In: Volkswerk, 1942, S.104–113.
- Sigurd ERIXON, *Volkskunst und Kunstkultur*. In: Volkswerk, 1941, S.36–49.

F

- Jacob FALKE, *Geschichte des Modernen Geschmacks*. Leipzig 1866.
- , *Die Kunstindustrie der Gegenwart. Studien auf der Pariser Weltausstellung im Jahre 1867*. Leipzig 1868.
- , *Die Kunst im Hause. Geschichtliche und kritisch-ästhetische Studien über die Dekoration der Wohnung*. Wien 1871.
- , *Asthetik des Kuntgewerbes. Ein Handbuch für Haus, Schule und Werkstätte*. Stuttgart 1883.
- Edit FÉL / Tamás HOFER, Klára K. CSILLÉRY, *Ungarische Bauernkunst*. Budapest 1958.
- / ——, *Husaren, Hirten, Heilige. Menschendarstellungen in der ungarischen Volkskunst*. Budapest 1966.
- Ferdinand von FELDEGG, *Grundriß der kunstgewerblichen Formenlehre*. Wien 1887.
- Robert FORRER, *Von alter und ältester Bauernkunst*. Eßlingen 1906 (=Führer zur Kunst, 5).
- Wilhelm FRAENGER, *Deutsche Vorlagen zu russischen Volksbilderbogen im 18.Jahrhundert*, In: Vom Wesen der Volkskunst. Berlin 1926 (Jahrbuch für historische Volkskunde). [邦訳] ヴィルヘルム・フレンガー (著) 河野 (訳) 「十八世紀のロシア民画 (木版摺繪) と元になったドイツの原画 —— 民藝と高次藝術の相関」愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第33号 (2015), pp. 155–208. — 河野 (著・編) 『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』(創土社2017) に収録.
- Karl FRÄNKEL, *Wiener Vorstadtkunst der Gegenwart*. Wien 1927.
- Douglas FRASER, *Die Kunst der Naturvölker*. München, Zürich 1962.
- Rudolf FRENZEL, *Gute Reiseandenken von heute. Eine Sonderausstellung des Bremer Focke-Museums, Sommer 1960* In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 5 (1960/61), S.97–101.

- Herbert FREUDENTHAL, *Die Wissenschaftstheorie der deutschen Volkskunde*. Hannover 1955 (Schriften des niedersächsischen Heimatbundes, N.F.25).
- , *Volkskundliche Streiflichter (Dingliche Volkskultur)*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 2/3 (1958), S.144–146.
- , *Volkskundliche Streiflichter (Gartenzweig)*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 7 (1963), S.82–91.
- , *Volkskundliche Streiflichter (Gebrauchsgüter)*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 9 (1965), S.104–109.
- Dagobert FREY, 参照, Joseph KLAPPER.
- Kurt FREYER, *Zum Problem der Volkskunst*. In: Monatshefte für Kunstwissenschaft, 9 (1916), S.215–227.
- Karl-Ewald FRITSCH, *Vom Bergmann zum Spielzeugmacher*. In: Deutsches Jahrbuch für Volkskunde, 11 (1965), S.179–211.
- Hans Norbert FÜGEN, *Die Hauptrichtungen der Literatursoziologie und ihre Methoden. Ein Beitrag zur literatursoziologischen Theorie*. Bonn 1964 (=Abhandlungen zur Kunst-, Musik- und Literaturwissenschaft, 21).
- G**
- Torsten GEBHARD, *Hell und Dunkel in der Volkskunst*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1950, S.65–74.
- , *Das Erlebnis des Pittoresken und die Entdeckung der Volkskunst*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 51 (1954), S.153–164.
- , *Volkskunstforschung. Bericht des Leiters der Arbeitsgruppe*. In: Arbeit und Volksleben. Deutscher Volkskundekongreß 1965 in Marburg. Göttingen 1967 (=Veröffentlichungen des Instituts für mitteleuropäische Volksforschung an der Philipps-Universität Marburg Marburg-Lahn, A, 4), S.156–159.
- Hans Friedrich GEIST, *Die Wiederbebung des Künstlerischen aus dem Volke*. Leipzig 1934.
- Ludwig GIESZ, *Phänomenologie des Kitsches*. Heidelberg 1960.
- Heinrich GLÜCK, *Beharrung und Entwicklung, Volkskunst und Persönlichkeit*. In: Studien zur Kunst des Ostens. Josef Strzygowski zum 60. Geburtstag. Wien und Hellerau 1923, S.177–181.
- Julius F. GLÜCK, *Die Gelbgüsse des Ali Amonikoyi. Ein kunstmorphologischer Beitrag zur Frage des Kitsches bei dem Naturvölkern*. In: Jahrbuch des Lindenmuseums Stuttgart, N.F.1. (1951), S.27–71.
- Leopold GMELIN, *Vom „Kunstgewerbe“ zur „Sachkunst“*. In: Hochland, 5/2 (1908), S.129–144.
- D. W. GOTSHALK, *Art and Social Order*. Chicago 1947.
- Richard GRAUL (Hg.), *Die Krisis im Kunstgewerbe. Studien über die Wege und Ziele der modernen Richtung*. Leipzig 1901.
- Clement GREENBERG, *Avant-Garde and Kitsch*. In: Bernhard ROSENBERG, David Manning WHITE (Ed.), *Mass Culture. The Popular Arts in America*. 8.Aufl. Glencoe 1963, pp. 98–107.
- Karl GRÖBER, *Schwaben*. München 1925 (=Deutsche Volkskunst, 5).
- Günter GROSCHOPF, *Was ist Volkskunst?* In: Volkswerk, 1943, S.50–57.
- Ludwig GROTE, *Expressionismus und Volkskunst*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 55 (1959), S.24–31.

Ernest van den HAAG, *Of Happiness and of Despair – We have no Measure*. In: Bernhard ROSENBERG, David Manning WHITE (Ed.), *Mass Culture. The Popular Arts in America*. 8. Aufl. Glencoe 1963, pp. 504–536.

H

Arthur HABERLANDT, *Gedanken über Volkskunst*. In: *Bildende Kunst*, 2 (1919), S.227–232.

———, *Begriff und Wesen der Volkskunst*. In: *Vom Wesen der Volkskunst*. Berlin 1926 (*Jahrbuch für historische Volkskunde*), S.20–32.

———, *Der 1. Internationale Volkskunstkongreß in Prag und seine Ergebnisse*. In: *Wiener Zeitschrift für Volkskunde*, 33 (1928), S.129–134.

———, *Sonderausstellung des Museums für Volkskunde: Kulturkuriose und Volksmusik*. In: *Wiener Zeitschrift für Volkskunde*, 37 (1932), S.81–93.

Michael HABERLANDT, *Österreichische Volkskunst. Aus den Sammlungen des Museums für österreichischen Volkskunde in Wien*. Wien 1911.

———, *Volkskunde und Kunstwissenschaft*. In: *Die Volkskunde und ihre Grenzgebiete*. Berlin 1925 (= *Jahrbuch für historische Volkskunde*, 1), S.217–231.

———, *Großstadt und Volkskunst*. In: *Alpenländische Monatshefte*, 2 (1925), S.500–502.

———, *Die europäische Volkskunst in vergleichenden Betrachtung*. In: *Vom Wesen der Volkskunst*. Berlin 1926 (= *Jahrbuch für historische Volkskunde*, 2), S.33–43.

Walter HÄVERNICK, »*Volkskunst*« und »*temporäre Gruppenkunst*«. *Ein Diskussionsbeitrag zur volkskundlichen Nomenklatur*. In: *Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde*, 9 (1965), S.119–125.

Konrad HAHM, *Deutsche Volkskunst*. Berlin 1928.

———, *Deutsche Volkskunst*. Breslau 1932. [邦訳] コンラート・ハーム (著) 丸山武夫 (訳) 『獨逸の民藝』 海南書房 昭和17年 (1942).

———, *Volkskunst, Hausfleiß und Handwerk*. In: *Mein Heimatland*, 20 (1933), S.13–20.

———, *Grundzüge der deutschen Volkskunst*. In: Adolf SPAMER (Hg.), *Deutsche Volkskunde*. Bd.1. Leipzig 1934, S.400–413.

Stuart HALL, Paddy WHANNEL, *The Popular Arts*. New York 1964.

Fritz HAMMER, *Kunstgewerbe. Eine Wirtschaftsstudie*. Diss. Berlin 1934.

Rudolf HANHART, *Appenzeller Bauernmalerei*. Taufen 1959.

Hans Jürgen HANSEN (Hg.), *Europas Volkskunst und die europäische beeinflusste Volkskunst Amerikas*. Oldenburg / Hamburg 1967.

Louis HARAP, *Social Roots of Art*. New York 1949.

Harzer Volkskunst. Drei Schnitzer und ihr Werk. Text von Georg REICHARDT, Hg. von Institut für Volkskunstforschung Leipzig. Leipzig 1959.

Peter von HASELBERG, *Die Kunst und die Gesetze der Konsumgesellschaft*. Braunschweig 1965.

Roar HAUGLID (Hg.), *Norwegische Volkskunst*. München 1967.

Wilhelm HAUSENSTEIN, *Bild und Gemeinschaft. Entwurf einer Soziologie der Kunst*. München 1920.

Arnold HAUSER, *Ziele und Grenzen der Soziologie der Kunst*. In: *Sociologica*. Festschrift für Max Horkheimer. Frankfurt 1955 (= *Frankfurter Beiträge zur Soziologie*, 1), S.387–398.

- , *Philosophie der Kunstgeschichte*. München 1958. (*Kunstgeschichte nach Bildungsgeschichten: Volkskunst und volkstümliche Kunst*, S.307–404).
- Hans Werner HEGEMANN, *Spektrum der Handwerkskunst*. Alfeld 1965.
- , *Die Gift-shops oder die Rache an der Kultur*. In: *Souvenir und Geschenk*, 4 (1966), S.248–250.
- Renate HELD, *Begriff und Wesen des Kunsthandwerks*. Masch.Diss. Wien 1955 (Hochschule für Welthandel).
- Gertrud HESS-HABERLANDT, *Volkskunst und Handwerk der Gegenwart in Österreich mit besonderer Berücksichtigung Niederösterreichs*. In: *Kuturberichte aus Niederösterreich*, 1957, S.39f.
- Stephan HIRZEL, *Kunsthandwerk und Manufaktur in Deutschland seit 1945*. Berlin 1953.
- Alfred HÖCK, *Drei ältere Stimmen zu Werken der Volkskunst*. In: *Hessische Blätter für Volkskunde*, 53 (1962), S.94–97.
- Otto HOERTH, *Schwarzwälder Volkskunst in ihrer volkskundlichen und kulturpsychologischen Bedeutung*. In: *Der Schwäbische Bund*, 3 (1920/21), S.115–127.
- Hans Egon HOLTHUSEN, *Ja und Nein. Neue kritische Versuche*. München 1954.
- Andreas HOPF, *Die Struktur des ästhetischen Urteils*. Diss. München-Allach 1968.
- Max HORKHEIMER, *Art and Mass Culture*. In: *Studies in Philosophy and Social Science*, 9 (1941), pp. 290–304.
- Herbert HÜBNER, *Die soziale Utopie des Bauhauses. Ein Beitrag zur Wissenssoziologie in der bildenden Kunst*. Diss. Darmstadt 1963.

J

- Alexander JAKOWSKI, Jadwiga JARNUSZKIEWICZ, *Polnische Volkskunst*. Wien und München 1968.
- Normen JACOB (Hg.), *Culture for the Millions. Mass Media in Modern Society*. Princeton, N.J. 1961.
- H. L. C. JAFFÉ, *De Stijl. Der niederländische Beitrag zur modernen Kunst*. Darmstadt 1966 (=Bauwelt Fundamente, 7)
- Helena JOHNŮVÁ, *Zum Problem der Beziehungen der volkstümlichen und handwerksmäßigen Produktion und ihres künstlerischen Charakters im 18. und 19. Jahrhundert*. In: *Communications de la délégation tchécoslovaque au VII^e Congrès international des sciences anthropologiques et ethnologiques*. Prag 1964, S.1–7.

K

- Alfred KAMPHAUSEN, *Volkskundliches und volkskunstforschung zur Unterbauung neuer kunstgeschichtlicher Betrachtung*. In: *Zeitschrift für Volkskunde*, N.F.6 (1934), S.158–168.
- Alfred KARASEK-LANGER, *Barockes Wurzelwerk der Weihnachtspyramiden. Beziehungen der Volkskunst zum kirchlich-höfischen Brauch des 16. bis 18. Jahrhunderts*. In: *Volkskunde und Volkskultur. Festschrift für Richard Wolfram*. Wien 1968. (=Veröffentlichungen des Instituts für Volkskunde, 2), S.164–195.
- Hans KARLINGER, *Grenzen der Volkskunst*. In: *Bayerischer Heimatschutz*, 23 (1927), S.10–17.
- , *Deutsche Volkskunst*. Berlin 1938 (=Propyläenkunstgeschichte, Ergänzungsband).
- Vytautas KAVOLIS, *Political Dynamics and Artistic Creativity*. In: *Sociology and Social Research*, 49 (1965), pp. 412–424.
- Christian KELLERER, *Weltmacht Kitsch. Ist Kitsch lebensnotwendig?* Stuttgart, Zürich, Wien 1957.

- Paul KETTEL, *Deutsche Hausindustrie*. Leipzig 1936.
- Adolf KISTNER, *Die Schwarzwälder Uhr*. Karlsruhe 1925 (= Vom Bodensee zum Main, 31).
- Josef KLAPPER, *Mitteilungen. Bericht über einen Vortrag von Dagobert Frey: „Probleme der Volkskunst“ auf der Hauptversammlung der Schles. Gesellschaft für Volkskunde, 1934*. In: *Mitteilungen der Schlesischen Gesellschaft für Volkskunde*, 34 (1934), S.378–379.
- George F. KNELLER, *The Art and Science of Creativity*. New York 1965.
- Heinrich KÖNIG, *Industrielle Formenentwicklung in Deutschland*. In: *Die Situation der Bildenden Kunst in Deutschland*. Hg.v. Ernst THIELE. Stuttgart 1954, S.100–119.
- Reinhold KOEPEL, *Bäuerliche Kunstkritik*. In: *Monatsschrift für die ostbayrischen Grenzmarken*, 11 (1922), S.19.
- John A. KOUWENHOVEN, *Made in America. The Arts in Modern Civilization*. Newton Mass. 1957
- Karl-S. KRAMER, *Zum Verhältnis zwischen Mensch und Ding. Probleme volkskundlicher Terminologie*. In: *Schweizerisches Archiv für Volkskunde*, 58 (1962), S.91–101.
- Lenz KRISS-RETTENBECK, *Das Votivbild*. München 1958.
- Alfred L. KROEBER - Clyde KLUCKHOHN, *Culture. A Critical Review of Concepts and Definitions*. New York o.J.
- Johannes KÜNZIG, *Volkskünstlerische Betätigung im Jahresbrauchtum*. In: *Populus revisus. Beiträge zur Erforschung der Gegenwart*. Tübingen 1966 (= Volksleben, 14), S.43–59.
- Das Kunstgewerbe-Museum zu Berlin. Festschrift zur Eröffnung des Museumsgebäudes*. Berlin 1881.

L

- Lothar LANG, *Über den Begriff und das Wesen der Volkskunst. Versuch einer näheren Bestimmung*. In: *Volkskunst*, 7 (1958), H.2, S.6f.; H.3, S.3f.
- (August Julius LANGBEHN), *Rembrandt als Erzieher. Von einem Deutschen*. Neuausgabe. Leipzig 1926 (1. Aufl. 1890).
- Konrad LANGE, *Geschmacksverirrungen im Kunstgewerbe*. In: *Dekorative Kunst*, 17 (1909), S.448–458.
- Reinhold LANGNER, *Zur Definition der Volkskunst*. In: *Deutsche Volkskunst. Ausstellung*. Dresden 1952, S.11–18.
- Reinhold LANGNER, *Neue Schnitzarbeiten vom Erzgebirge. Ein Bericht über die methodische Arbeit zur Erneuerung der materialien Volkskultur im sächsischen Erzgebirge. In Zusammenarbeit mit Herbert Clauss und Manfred Bachmann*. Leipzig 1957.
- Klaus LENKHEIT, *Kunstgeschichte unter dem Primat der Technik*. Karlsruhe 1966 (= Karlsruher Akademische Rden, N.F.24).
- Oliver W. LARKIN, *Art and Life in America*. 3. Aufl. New York 1956.
- Otto LAUFFER, *Deutsche Volkskunst*. In: *Zeitschrift für Deutschkunde*, 41 (1927), S.593–611.
- , *Wesen und Wirken der Volkskunst*. In: *Volkskundliche Beiträge. Festschrift für Richard Wossidlo*. Neumünster 1939, S.138–150.
- , *Volkskunst*. In: *Will-Erich PEUCKERT, - Otto LAUFFER, Volkskunde. Quellen und Forschungen seit 1930*. Bern 1951, S.323–335.

- Otto LEHMANN, *Die Volkskunst in der Internationalität*. In: *Volkskunst und Kulturpolitik*. Festschrift für Georg Schreiber. Köln 1933, S.1–18.
- Siegfried LEHMANN, *Grundbegriffe der Volkskunst. Heimat-Ebenmaß-Sinnbild*. In: *Hessische Blätter für Volkskunde*, 49/50 (1958), S.91–111.
- Kurt LENK, *Zur Methodik der Kunstsoziologie*. In: *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 13 (1961), S.413–425.
- Alfred LICHTWARK, *Makartbouquet und Blumenstrauß*. Berlin 1894.
- , *Vom Arbeitsfeld des Dilettantismus*. Berlin 1897.
- Franz LINDE, *Kunst oder Kitsch. Ein Führer zur Kunst*. Berlin 1934.
- Jean LIPMAN, *American Folk Art in Wood, Metal and Stone*. New York 1948.
- Franz LIPP, *Volkskunst und Handwerk der Gegenwart in Österreich*. Wien 1957.
- Leo LÖWENTHAL, *Das Problem der Populärkultur*. In: *Rundfunk und Fernsehen*, 7 /1(1960), S.21–32.
- , *Literatur und Gesellschaft. Das Buch in der Massenkultur*. Neuwied 1964 (=Soziologische Texte, 27).
- Emil LOHSE, *Volkskunst. Eine Besinnung auf ihre bildnerische Eigenart*. In: *Mitteldeutsche Blätter für Volkskunde*, 11 (1936), S.161–173.
- Carl von LÜTZOW (Hrsg.), *Kunst und Kunstgewerbe auf der Wiener Weltausstellung 1873*. Leipzig 1875.
- Heinz Otto LÜTHE, *Interpersonale Kommunikation und Beeinflußung*. Stuttgart 1968.
- Joseph August LUX, *Motive aus alter Kultur*. In: *Dekorative Kunst*, 11 (1903), S.274–280.
- , *Das neue Kunstgewerbe in Deutschland*. Leipzig 1908.

M

- Dwight MACDONALD, *A Theory of Mass Culture*. In: Bernard ROSENBERG, David Manning WHITE (Ed.), *Mass Culture. The Popular Arts in America*. 8.Aufl. Glencoe 1963, pp. 59–73.
- Adolf MAIS, *Die polnische Volkskunstforschung seit 1945. Ein Literaturbericht*. In: *Österreichische Zeitschrift für Volkskunde*, N.S.9. (1955), S.61–69, S.152–157.
- André MALRAUX, *Art, Popular Art, and the Illusion of the Folk*. In: *Partisan Review*, 18 (1951), pp. 487–495.
- Alfred MEIER, *Kommerzialisierung der Kultur*. Zürich und St.Gallen 1965 (=Veröffentlichungen der Hochschule St.Gallen. Volkswirtschaftlich-wirtschaftsgeographische Reihe, 3).
- Günter MEISSNER, *Was ist Kitsch?* In: *Volkskunst*, 9 (1960), H.7, S.71–73.
- Ernst MEUMANN, *Einführung in die Ästhetik der Gegenwart*. Leipzig 1908.
- Peter MEYER, *Kunst und ihr Publikum*. In: *Wirtschaft und Kultursystem*. Hg.v.Gottfried EISERMANN. Erlenbach-Zürich und Stuttgart 1955, S.255–266.
- Erich MEYER-HEISIG, *Deutsche Volkskunst. Mit einem Geleitwort von Ludwig Grote*. München 1954.
- Werner MICHAEL, *Grundlagen und Entwicklung der industriellen Formgebung*. Dresden 1951.
- Nicola MICHAILOV, *Zur Begriffsbestimmung der Laienmalerei*. In: *Zeitschrift für Kunst- und Geschichte*, 4 (1935), S.283–300.
- Robert MIELKE, *Die Ausstellung für Wohnungseinrichtung n Berlin*. In: *Kunst für Alle*, 8 (1892/93), S.64f.
- , *Volkskunst*. Magdeburg 1896.

- Marta MIERENDORFF, *Über den gegenwärtigen Stand der Kunstsoziologie in Deutschland*. In: Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie, 9 (1957), S.397–412.
- Marta MIERENDORFF - Heinrich TROST, *Grundlegung einer Kunstsoziologie*. In: Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie, 6 (1953/54), S.1–15.
- - ———, *Einführung in die Kunstsoziologie*. Köln und Opladen 1958 (=Synthese, 2).
- Ute MOHRMANN, *Die Entwicklung des bildnerischen Volksschaffens in Berlin von 1945 bis zur Gegenwart. Eine Untersuchung zur Durchsetzung der sozialhistorischen Kulturrevolution*. Masch. Diss. Berlin (HU) 1966.
- William MORRIS, *Kunstgewerbliches Sendschreiben*. Leipzig 1901.
- , *Die Kunst und die Schönheit der Erde*. Leipzig 1901.
- , *Wahre und falsche Gesellschaft*. Leipzig 1902.
- , *Collected Works*. 24 Bde. London 1910–15.
- W. MRAZEK, „Hohe – triviale Kunst“. *Wissenschaft, Industrie und Kunst – Bürgerkünste und Kunstindustrie im 19. Jahrhundert in Österreich*. In: Tagung des Arbeitskreises „Kunstgeschichte“ der Thyssen-Stiftung. Vervielf. Protokoll. Darmstadt 1966, S.54–74.
- Richard MÜHE, *Die Entwicklung des Schwarzwälder Uhr*. In: Der Museumsfreund, 2 (1962), S.4–22.
- Willi MÜLLER, *Der Gartenzweig – ein zeitgenössisches Phänomen*. In: Hie gut Württemberg. Beilage zur Ludwigsburger Kreiszeitung, 11 (1960), S.51f, S.59–61, 12 (1961), S.5–7, S.9f.
- Hermann MUTHESIUS, *Der kunstgewerbliche Dilettantismus in England. Insbesondere das Wirken des Londoner Vereins für häusliche Kunstindustrie*. Berlin 1900.
- , *Der Weg und das Endziel des Kunstgewerbes*. In: Dekorative Kunst, 13 (1905), S.181–190, S.230–238.
- , *Die Bedeutung des Kunstgewerbes*. In: Dekorative Kunst, 15 (1907), S.177–192.
- , *Kunstgewerbe und Architektur*. Jena 1907.
- , *Heimatkunst und Einheitsform*. In: Dekorative Kunst, 24 (1916), S.159–165.
- N**
- Friedrich NAUMANN, *Die Kunst im Zeitalter der Maschine*. Berlin-Schöneberg 1904.
- , *Kunst und Industrie*. Berlin-Schöneberg 1906.
- Hans NAUMANN, *Primitive Gemeinschaftskultur. Beiträge zur Volkskunde und Mythologie*. Jena 1921.
- , *Grundzüge der deutschen Volkskunde*. Leipzig 1922.
- , *Besprechung: Jahrbuch für historische Volkskunde. Hrsg. von Wilhelm Fraenger. 2.Band: Vom Wesen der Volkskunst (Berlin 1926)*. In: Hessische Blätter für Volkskunde, 25 (1926), S.260–264.
- Paul NEDO, *Eine neue sorbische Volkskultur auf der Grundlage alter Volkskunst*. In: Mitteilungen des Landesamtes für Volkskunde und Denkmalpflege Sachsen, 1 (1951), S.11–15.
- , „*Volkskunst*“ – *Gestern und heute. Eine begriffliche Erörterung*. In: Tradition und Gegenwart. Festschrift zum 150-jährigen Bestehen des Musikverlages Friedrich Hofmeister. Leipzig 1957, S.81–88.
- H. A. NEEDHAM, *Le Développement de l'Esthétique sociologique en France et en Angleterre au XIX^e siècle*. Diss. Pris 1926.

Helmut NEMEC, *Alpenländische Bauernkunst. Eine Darstellung für Sammler und Liebhaber*. Wien 1966.
Liesel NOACK, *Künstlerisches Laienschaffen und industrielle Formgestaltung*. In: Jahrbuch des Instituts für
Volkskunstforschung beim Zentralhaus für Kulturarbeit. Leipzig 1963, S.94–101.

O

Hermann OBRIST, *Wozu über Kunst schreiben?* In: *Dekorative Kunst*, 5 (1900), S.169–195.
———, *Luxuskunst oder Volkskunst*. In: *Dekorative Kunst*, 9 (1902), S.81–99.
Max OSBORN, *Das Volk und die bildende Kunst*. In: *Soziale Praxis*, 10 (1900/1901), S.1034–1038.

P

Walter PASSARGE, *Probleme der Volkskunst*. In: *Das Werk des Künstlers. Kunstgeschichtliche Zweimonatsschrift*, 1 (1939/1940), S.333–361.
Gregor PAULSSON, *Die soziale Dimension der Kunst*. Berlin 1955 (=Schriften der „Concinnitas“ im Kunsthistorischen Seminar der Universität Basel).
Gustav E. PAZAUREK, *Musterstücke in Kunstgewerbemuseen*. In: *Der Kunstwart*, 12 (1899), S.398–403.
———, *Geschmacksverirrungen im Kunstgewerbe. Führer durch die neue Abteilung im königl. Landes-Gewerbemuseum*. Stuttgart. 2.Auf. Stuttgart 1909.
———, *Guter und schlechter Geschmack im Kunstgewerbe*. Stuttgart und Berlin 1912.
———, *Heutiges württembergisches Kunsthandwerk*. In: *Kunstgewerbeblatt*, N.F.25 (1914), S.161–175.
———, *Das Kunstgewerbe in Württemberg*. In: *Württemberg unter der Regierung König Wilhelm II*. Hg.v. Viktor BRUNS. Stuttgart 1916, S.661–680.
Friedrich PECHT, *Kunst und Kunstindustrie auf der Weltausstellung von 1867*. 2.Auf. Leipzig 1867.
Nikolaus PEVSNER, *Wegbereiter moderner Formgebung. Von Morris bis Gropius*. Reinbek bei Hamburg 1957 (=rde, 33).
———, *Architektur und angewandte Kunst*. In: Jean CASSOU - Emil LANGUI, Nikolaus PEVSNER, *Durchbruch zum 20. Jahrhundert. Kunst und Kultur der Jahrhundertwende*. München 1962, S.229–260.
Arnold PFISTER, *Bemerkungen zu den Grundlagen der Volkskunst*. In: *Schweizerisches Archiv für Volkskunde*, 43 (1946), S.391–438.
Ksawery PIVOCKI, *A la limite de l'Art populaire et non-populaire*. In: *Zeszyty etnograficzne. Muzeum Kultury i Sztuki Ludowej w Warszawie* 1 (1960), pp. 36–42.
Robert POEVERLEIN (Hg.), *Bayerisches Kunsthandwerk von heute*. München 1952.
Julius POSENER, *Anfänge des Funktionalismus. Von Arts and Crafts zum Deutschen Werkbund*. Darmstadt 1966. (=Bauwelt Fundamente, 11).
Rudolf PRACHER, *Möbelbemalung. Erhaltung alter Volkskunst durch alte und neue Handwerkstechnik*. Leipzig (1938).
Lothar PRETZELL, *Volkskunst*. In: *Volkskunst aus Deutschland, Österreich und der Schweiz. Ausstellung in der Kunsthalle Köln*. Köln 1968, S.12–16.
Hans PRINZHORN, *Der Urvorgang der bildnerischen Gestaltung*. In: *Vom Wesen der Volkskunst*. Berlin 1926 (=Jahrbuch für historische Volkskunde, 2), S.10–19.
Heinz QUITZSCH, *Zur Kritik der bürgerlichen Kunstsoziologie in Deutschland*. Masch.Habil.-Schr. Greifs-

wald 1966.

R

- Kurt RANKE, *Zivilisation und Volkstum*. In: Beiträge zur deutschen Volks- und Altertumskunde, 2/3 (1958), S.9–22.
- Mohammed RASSEM, *Gesellschaft und bildende Kunst. Eine Studie zur Wiederherstellung des Problems*. Berlin 1960.
- Herbert READ, *Wurzelgrund der Kunst. Vier Vorträge*. Berlin und Frankfurt 1951 (=Bibliothek Suhrkamp, 5)
 ———, *Art and Industry: the Principles of Industrial Design*. London-New York 1954.
 ———, *Art and Society*. 3.Aufl. London 1956.
- Robert REDFIELD, *Peasant Society and Culture. An Anthropological Approach to Civilisation*. Chicago 1956.
- Horst REIMANN, *Kommunikations-Systeme. Umriss einer Soziologie der Vermittlungs- und Mitteilungsprozesse*. Tübingen 1968 (=Heidelberger Sociologica, 7).
- Jacob REISNER, *Zum Begriff „Kitsch“*. Masch. Diss. Göttingen 1955.
 ———, *Zum Begriff Trivialkunst*. In: Tagung des Arbeitskreises „Kunstgeschichte“ der Thyssen-Stiftung. Vervielf. Protokoll. Darmstadt 1966, S.6–22.
- Johannes RICHTER, *Die Entwicklung des kunsterzieherischen Gedankens. Als Kulturproblem der Gegenwart nach Hauptgeschichtspunkten dargestellt*. Diss. Leipzig 1909.
- Leonie RICHTER, *Wiederbelebung deutscher Volkskunst*. In: Rheinische Blätter, 13 (1936), S.320–326.
- Aloist RIEGL, *Volkskunst, Hausfleiß und Hausindustrie*. Berlin 1894. [邦訳] アーロイス・リーグル (著) 河野 (訳) 「民藝・自家作業・家内工業」2014年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第32号 (2014), pp. 83–126. — 河野 (著・編) 『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』(創土社 2017) に収録.
- H. RIEMER, *Über den Unterschied zwischen Kunsthandwerk und Kunstgewerbe*. In: Die Schaulade. Ausgabe A 24 (1949), S.57–62.
- J(osef) RINGLER, *Der Heimatwerkgedanke in Österreich*. In: Heimatwerk, 17 (1952), S.36–51.
- Gislind RITZ, *Alois Riegls kunstwissenschaftliche Theorien und die Volkskunst*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1956, S.39–41.
 ———, *Die bürgerliche-handwerkliche Hinterglasmalerei des 18. Jahrhunderts in Augsburg*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1964/1965, S.47–75.
 ———, *Feiertagsarbeit*. In: Arbeit und Volksleben. Deutscher Volkskundekongreß 1965 in Marburg. Göttingen 1967 (=Veröffentlichungen des Instituts für mitteleuropäische Volksforschung an der Philipps-Universität Marburg-Lahn, A, 4), S.160–173.
- Josef Maria RITZ, *Ausstellung lebender Volkskunst*. In: Bayerischer Heimatschütz, 28 (1932), S.91f.
 ———, *Volkskunst. Wesen, Wert und Geschichte*. In: Schöner Heimat, 33 (1937/38), S.65–72.
 ———, *Süddeutsche Volkskunst*. München 1938.
 ———, *Der Bauer Andreas Fischer aus Seidenhof als Schnitzerl*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1953, S.89–90.
 ———, *Überblick über die Volkskunstforschung mit Literaturnachweisen*. In: Bayerisches Jahrbuch für

- Volkskunde, 1957, S.62–165.
- , *München und die Volkskunstforschung. Eine wissenschaftsgeschichtliche Studie*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1958, S.155–167.
- , *Datierte Volkskunst*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1959, S.162–164.
- Erich RÖHR, *Deutsche Volkskunstforschung. Zum Schrifttum der Jahre 1937 und 1938*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 48 (1939), S.228–248.
- Bernard ROSENBERG, David Mannig WHITE (Ed.), *Mass Culture. The Popular Arts in America*. 8. Aufl. Clencoe 1963.
- Harold ROSENBERG, *Art and Work*. In: Partisan Review, 32 (1965), pp. 50–56.
- Hellmut ROSENFELD, *Das Rolle des Bilderbogens in der deutschen Volksliteratur*. In: Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde, 1955, S.79–85.
- Karl ROSNER, *Die dekorative Kunst im neunzehnten Jahrhundert. Ein Stück Kunstgeschichte*. Berlin 1898 (= Am Ende des Jharhunderts, Rückschau auf 100 Jahre geistiger Entwicklung, 6).
- Claude ROY, *Kunst der Naturvölker*. Köln 1959.
- Christian RUBI, *Triebkräfte in der bernischen Volkskunst*. In: Schweizerisches Archiv für Volkskunde, 47. (1951), S.150–166.
- John RUSKIN, *Ausgewählte Werke in vollständiger Übersetzung von Wilhelm SCHÖLERMANN*. 15 Bde. Leipzig 1900–1906.

S

- Paul SANDOR, *Probleme einer Kunstsoziologie mit besonderer Berücksichtigung der Literatur*. Masch.Diss. Wien 1925.
- Martin SCHARFE, *Schönheit und Religion. Ein Versuch auf der Grundlage einer kleinen Umfrage*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 63 (1967), S.222–235.
- , *Evangelische Andachtsbilder. Studien zu Intention und Funktion des Bildes in der Frömmigkeitsgeschichte vornehmlich des Schwäbischen Raumes*. Stuttgart 1968 (=Veröffentlichungen es Staatlichen Amtes für Denkmalpflege,C 5).
- Marie-Luise SCHEERER, „*Bauend erst baut der Mensch sich selbst*“. *Das Utopia im Großstadtwinkel. – Wenn der Bürger wohnen darf, wie er will*. In: Die Zeit, vom 11. Okt. 1968.
- Karl SCHEFFLER, *Sozial angewandte Kunst*. In: Dekorative Kunst, 5 (1900), S.129–131.
- , *Unsere Traditionen*. In: Dekorative Kunst, 6 (1900), S.436–445.
- , *Volkskunst*. In: Dekorative Kunst, 7 (1901), S.140–144.
- Rudolf SCHENDA, *Ein französischer Bilderbogenkatalog aus dem Jahre 1860*. In: Schweizerisches Archiv für Volkskunde, 62 (1966), S.49–61.
- , *Einzelthesen (kein System) zur Kunstsoziologie*. Vervielf. Ms. Tübingen 1969.
- Vladimir SCHEUFLER - Jitka STANKOVA - Miroslaf JANOTKA, *Der Begriff „Volkswerk“ und dessen Applikation*. In: Communikaions de la delegaton tchecoslovaque au VIIe Congres international de sciences anthropologiques et ethnologiques. Prag 1964, S.1–9.
- Ernst SCHLEE, *Schleswig-Holsteinische Volkskunst*. Flensburg 1964 (=Kunst in Schleswig-Holstein, 14).

- , *Nordfriesische Laienmalerei*. In: Kunst in Schleswig-Holstein. Jahrbuch des Schleswig-Holsteinischen Landesmuseums, 1953, S.82–111.
- Werner SCHMALENBACH, *Die Kunst der Primitiven als Anregungsquelle für europäische Kunst bis 1900*. Diss. Köln 1961.
- , *Kunst und Gesellschaft – heute*. Düsseldorf 1961.
- Alfred SCHMELLER, *Risse im Damm gegen den Kitsch. Bericht von der 12. Triennale in Mailand*. In: Alte und moderne Kunst, 5 (1960), Nr.10, S.21–25.
- Leopold SCHMIDT, *Volkskunst in Österreich*. Wien-Hannover 1966.
- , *Bauernmöbel aus Süddeutschland, Österreich und der Schweiz*. Wien-Hannover 1967.
- , *Möbel*. In: Volkskunst aus Deutschland, Österreich und der Schweiz. Ausstellung in der Kunsthalle Köln. Köln 1968, S.31–34.
- , *Volkskunst und Volksbrauch*. In: Volkskunst aus Deutschland, Österreich und der Schweiz. Ausstellung in der Kunsthalle Köln. Köln 1968, S.17–20.
- Oskar SCHMOLITZKY, *Volkskunst in Thüringen vom 16. bis zum 19. Jahrhundert*. Weimar 1964.
- Robert SCHMUTZLER, *Art Nouveau – Jugendstil*. Stuttgart 1962.
- Horst SCHNABEL, *Zum Klassencharakter der Volkskunst. Über ästhetische und kulturpolitische Grundfragen im Volkskunstschaffen*. In: Volkskunst, 8 (1959), H.2, S.-8.
- Wolfgang SCHUCHARDT, *Volksrealien oder Volkskunst? Zur Aufgabenstellung der Volkskunde und der Kunstwissenschaft im Bereiche der Sachvolkskunde*. Masch.Habil.-Schrift. Potsdam 1944.
- Paul SCHULTZE-NAUMBURG, *Häusliche Kunstpflege*. Leipzig 1900.
- , *Kunst und Kunstpflege*. Leipzig 1901.
- Fritz SCHUMACHER, *Streifzüge eines Architekten. Gesammelte Aufsätze*. Jena 1907.
- Paul SCHUMANN, *Volkstümliche Ausstellung für Haus und Herd in Dresden*. In: Dekorative Kunst, 5 (1900), S.135–136, S.212–216.
- Ernst SCHUR, *Die internationale Volkskunst-Ausstellung im Lyzeum-Klub zu Berlin*. In: Dekorative Kunst, 17 (1909), S.393–401.
- Hermann SCHWABE, *Die Förderung der Kunst-Industrie in England und der Stand dieser Frage in Deutschland*. Berlin 1866.
- Herbert SCHWEDT, *Moderne Kunst, Kunstgewerbe und Volkskunst*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 60 (1964), S.202–217.
- , *Lebendige Volkskunst heute*. In: Mitteilungsblatt der Ehemaligen Landwirtschaftsschüler von Horb am Neckar, 1966, S.9–13.
- , *Zur Geschichte des Problems „Volkskunst“*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 65 (1969), S.169–182.
[邦訳] ヘルベルト・シュヴェート（著）河野（訳）「《民藝》問題の変遷」河野（著・編）『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』（創土社 2017）に収録
- Hans SCHWENKEL, *Geschnitzte Wegweiser*. In: Schwäbische Heimat, 6 (1955), S.213–217.
- Julius SCHWIETERING, *Vom zeichenhaften Sinn der Volkskunst*. In: Niederdeutsche Zeitschrift für Volkskunde, 11 (1933), S.56–67.
- Oskar SCHWINDRAZHEIM, *Von deutscher Bauernkunst*. In: Der Kunstwart, 14 /2 (1901), S.427–435, S.489–

- 496.
- , *Läßt sich die Bauernkunst wieder beleben?* In: *Der Kunstwart*, 14 /1 (1901/02), S.140–144.
- , *Deutsche Bauernkunst*. Wien 1903.
- Hans SCHWIPPERT (Hrsg.), *Darmstädter Gespräch 1952: Mensch und Technik*. Darmstadt 1952.
- Gilbert SELDES, *The People and the Arts*. In: Bernard ROSENBERG - David Mannig WHITE (Ed.), *Mass Culture. The Popular Arts in America*. 8. Aufl. Glencoe 1963, pp. 74–97.
- Helmut SELING (Hrsg.), *Jugendstil. Der Weg ins 20. Jahrhundert*. Heidelberg 1959.
- Gottfried SEMPER, *Wissenschaft, Industrie und Kunst. Vorschläge zur Anregung nationalen Kunstgefühls bei dem Schlusse der Londoner Industrie-Ausstellung*. Braunschweig 1852.
- , *Der Stil in den technischen und tektonischen Künsten oder praktische Ästhetik*. 2.Aufl. 2 Bde. München 1878/79.
- Friedrich SIEBER, *Begriff und Wesen der Volkskunst in der Volkskunstforschung*. In: *Wissenschaftliche Annalen*, 4 (1955), S.22–32.
- Alphons SILBERMANN, *Kunst*. In: René KÖNIG (Hrsg.), *Soziologie*. Frankfurt 1958 (=Das Fischer Lexikon, 10), S.156–166. Neuausgabe. Frankfurt 1967, S.164–174.
- , *Zur Soziologie der Kunsterziehung*. In: *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 16 (1964), S.342–351.
- , *Ketzereien eines Soziologen. Kritische Äußerungen zu Fragen unserer Zeit*. Wien-Düsseldorf 1965.
- , *Anmerkungen zur Musiksoziologie. Eine Antwort auf Theodor W. Adornos „Thesen zur Kunstsoziologie“*. In: *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 19 (1967), S.538–545.
- Oskar SIMON, *Das gewerbliche Fortbildungs- und Fachschulwesen in Deutschland. Ein Überblick über seine Entwicklung und seinen gegenwärtigen Stand*. Berlin 1903.
- Merian SMITH (ed.), *The Artist in Trivial Society. Proceedings of a Symposium held at the Royal Anthropological Institute*. London 1961.
- Werner SOMBART, *Kunstgewerbe und Kultur*. Berlin 1908.
- Adolf SPAMER, *Volkskunst und Volkskunde*. In: *Oberdeutsche Zeitschrift für Volkskunde*, 2 (1928), S.1–30.
- [邦訳] アードルフ・シュパーマー (著) 河野 (訳) 「民藝と民俗学」愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第32号 (2015), pp. 155–208. — 河野 (著・編) 『ドイツ民藝論 —— 考察と資料』(創土社 2017) に収録.
- , *Volkskunde. Allgemeines – Volkssage – Volkserzählung – Volkslied – Volkssprache - Volkskunst*. In: *Germanische Philologie. Ergebnisse und Aufgaben. Festschrift für Otto Behagel*. Heidelberg 1934 (= *Germanische Bibliothek*, 1, 1, 19), S.435–481.
- , *Hessische Volkskunst*. Jena 1939.
- , *Volkskunstforschung als akademisches Lehrfach*. In: *Volkswerk*, 1941, S.24–35.
- , *Sachsen*. Weimar 1943 (=Deutsche Volkskunst).
- , *Kurze Bemerkungen zu Wesen und Bedeutung der Volkskunst*. In: *Deutsche Volkskunst. Ausstellung*. Dresden 1952, S.8–10.
- Gerd SPIES, *Hafner und Hafnerhandwerk in Südwestdeutschland*. Tübingen 1964 (= *Volksleben*, 2).
- Rudolf STRÖBEL, *Schwenninger Schildmalerei*. In: *Der Museumsfreund*, 2 (1962), S.36–43.

Nils STRÖMBOM, *Handwerksmäßig und volkstümlich. Ein Beitrag zur Charakteristik de Volkskunst*. In: Folk-Liv, 21/22 (1957/58), S.163–184.

Wilhelm STURMFELS, *Grundprobleme der Ästhetik*. München / Basel 1963.

T

Bruno TAUT, *Die neue Wohnung Die Frau als Schöpferin*. 4.Aufl. Leipzig 1926. [邦訳] ブルーノ・タウト (著) 斎藤理 (訳) 『新しい住居：つくり手としての女性』中央公論美術出版 2004.

Jürgen TELLER, *Karl Marx und Friedrich Engels zu Fragen des künstlerischen Volksschaffens*. Masch. Diss. Berlin (HU) 1967.

Hans TIETZE, *Volkskunst und Kunst*. In: Die Bildende Kunst, 2 (1919), S.225f.

Sergei A. TOKAREV, *Die Grenzen der ethnologischen Erforschung der Völker industrieller Länder*. In: Ethnologia Europaea, 1 (1967), S.30–37.

Paolo TOSCHI, *Arte popolare italiana*. Rom 1960.

Klara TROST, *Schönes Heim, schöner Hausrat*. Berlin 1953 (=Bauwelt-Sonderhefte, 12/13).

Albert TRUEMAN, R. DAVIES, P. BERTON, *The Arts as Communication*. Tronto 1962.

U/V

Herta UHLRICH, *Volkskunst 1956–1961*. In: Deutsches Jahrbuch für Volkskunde, 8 (1962), S.187–200.

Henry van de VELDE, *Allgemeine Bemerkungen zu einer Synthese der Kunst*. In: Pan, 5 (1899), H.4, S.261–270.

———, *Die Renaissance im modernen Kunstgewerbe*. Berlin 1901.

———, *Kunstgewerbliche Laienpredigten*. Leipzig 1902.

———, *Zum neuen Stil. Aus seinen Schriften ausgewählt und eingeleitet von Hans CURJEL*. München 1955.

Alfred VIERKANDT, *Prinzipienfragen der ethnologischen Kunstforschung*. In: Vom Wesen der Volkskunst. Berlin 1926 (=Jahrbuch für historische Volkskunde, 2), S.1–9.

Gabriela VOGL, *Kinderkunst und Volkskunst als Ausdruck gleicher Entwicklungsgesetze in der bildenden Kunst. Unter besonderer Berücksichtigung der österreichischen Kunst*. Masch. Diss. Innsbruck 1951.

Jan de VRIES, *Niederlandsche Volkskunst*. Amsterdam 1941.

Josef VYDRA, *Die Hinterglasmalerei. Volkskunst aus tschechoslowakischen Sammlungen*. Prag 1957.

Josef VYDRA, Ludvik KUNTZ, *Malerei auf Volksmajolika. Von der Wiedertäuferkeramik zur Volkskunst. 1685–1925*. Prag 1956.

W

Heinrich WAENTIG, *Wirtschaft und Kunst. Eine Untersuchung über Geschichte und Theorie der modernen Kunstgewerbebewegung*. Jena 1909.

Wilhelm WAETZOLDT, *Schöpferische Phantasie*. Wiesbaden 1947.

Wilhelm WAGENFELD, *Wesen und Gestalt der Dinge um uns*. Potsdam 1948.

———, *Alltägliche Umwelt*. In: Bildende Kunst, 2 (1948), H.11/12, S.37–41.

Max WALTER, *Die Volkskunst im badischen Frankenlande*. Karlsruhe 1927 (=Vom Bodensee zum Main, 33).

———, *Wege zur Erkenntnis der Volkskunst*. In: Niederdeutsche Zeitschrift für Volkskunde, 3 (1929), S.86–

100.

Bruce A. WATSON, *Kunst, Künstler und soziale Kontrolle*. Köln und Opladen 1961 (Kunst und Kommunikation, 3).

Erich WEBER, *Das Freizeitproblem. Anthropologisch-pädagogische Untersuchung*. München / Basel 1963.

Ingeborg WEBER-KELLERMANN, *Der Weihnachtsberg des Friedrich Nötzel aus Brünlos im Erzgebirge*. In: *Zeitschrift für Volkskunde*, 54 (1958), S.44–60.

Richard WEISS, *Ein Wandteppich aus dem Prätigau als Beispiel echter Volkskunst aus dem Jahre 1938*. In: *Schweizer Volkskunde*, 30 (1940), S.3–10.

Paul WESTHEIM, *Heimatkunst*. In: *Dekorative Kunst*, 19 (1911), S.187–189.

———, *Volkskunst unserer Zeit*. In: *Dekorative Kunst*, 23 (1915), S.49–61.

———, *Alte Schmiede- und Gußeisenarbeiten*. In: *Dekorative Kunst*, 25 (1917), S.159–173.

Leopold von WIESE, *Methodologisches über den Problemkreis einer Soziologie der Kunst*. In: *Verhandlungen des Siebenten Deutschen Soziologentages 1930*. Tübingen 1931, S.121–132.

Robert WILDHABER, *Hinweise auf neue Bücher und einige kritische Bemerkungen*. In: *Schweizerisches Archiv für Volkskunde*, 48 (1952), S.99–125.

———, *Der „Déserteur“*. *Ein Walliser Maler religiöser Volkskunst*. In: *Rheinisches Jahrbuch für Volkskunde*, 12 (1961), S.211–226. [邦訳] ローベルト・ヴィルトハーバー (著) 河野 (訳) 「〈脱走兵〉と呼ばれたスイスの繪師に見る宗教民藝」愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第39号 (2017), pp. 109–132.

———, *Schweizerische Volkskunst*. In: *Schweizerische Volkskunst. Eine Ausstellung des Deutschen Kunstrates und der Stiftung „Pro Helvetia“*. Opladen 1967, u.p.

———, *Volkskunst in Europa. Geleitwort*. In: Hans Jürgen HANSEN (Hrsg.), *Europans Volkskunst und die europäische beeinflusste Volkskunst in Amerikas*. Oldenburg-Hamburg 1967, S.6–8.

———, *Schweizerische Volkskunst*. In: *Volkskunst aus Deutschland, Österreich und der Schweiz. Ausstellung in der Kunsthalle Köln*. Köln 1868, S.21–24.

———, *Zur Begriffsbestimmung der Volkskunst*. In: *Volksüberlieferung. Festschrift für Kurt Rane*. Göttingen 1968.

Robert N. WILSON, *The Arts in Society*. Englewood Clifts 1964.

Paul Stover WINGERT, *Primitive Arts, its Traditions and Styles*. New York 1962.

Heinrich WINKELMANN, *Bergmännische Kunst de Gegenwart in Ruhrrevier*. In: *Westfalenspiegel*, 2 (1953), S.7–10.

Wir fingen einfach an. Arbeiten und Aufsätze von Freunden und Schülern um Richard Riemerschmid zu dessen 85. Geburtstag, gesammelt und herausgegeben von Heinz THIERSCH. München 1953.

Z

Oskar von ZABORSKY, *Wege der Volkskunst*. In: *Österreichische Zeitschrift für Volkskunde*, N.S.10. (1956), S.43–53.

———, *Votivtafeln als Werke der Volkskunst. Beispiele aus Niederbayern*. In: *Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde*, 1955, S.86–92.

Erik ZAHLE (Hrsg.), *Skandinavisches Kunsthandwerk*. München-Zürich 1961.

Hans Ludwig ZANKL, *Kunst, Kitsch und Werbewirkung*. Düsseldorf, Wien 1966.

Werner ZIEGENFUSS, *Kunst (Bildende Kunst und Literatur)*. In: Alfred VIERKANDT (Hrsg.), *Handwörterbuch der Soziologie*. Stuttgart 1931, S.308-338.

Adelhart ZIPPELIUS, *Volkskunst im Rheinland*. In: *Volkskunst in Rheinland*. Ausstellung im Rheinischen Freilichtmuseum Kommern. Düsseldorf 1968 (=Führer und Schriften des Rheinischen Freilichtmuseums in Kommern, 4), S.7-14.

【解説】

エルケ・シュヴェートの民藝論の翻訳をこれで終える。もっとも論説そのものは前回までで、本号は「付録」のアンケート表と参考文献である。なお「人名・事項索引」を残しているが、今回は省く。紀要の運用から断続的な分載となったが、日本ではあまり知られていない西洋の民藝論議の一端を紹介することになったであろう。

エルケ・シュヴェート女史の略歴と本編の簡単な位置づけは連載のはじめに記した。女性の民俗学者の早い一人であり、特にバウジンガーを中心とする民俗学の改革の一翼をになったパイオニアである。本編については初回の改題では中身にあまり踏み込んではいなかったため、終えるにあたって少し補足しておきたい。本編を訳したのは、民藝をめぐる西洋の理論の特徴が伝わり、分量も適度な文献という目安に合ったからである。もちろん著者には明らかな主張もある。が、それも含めて、ドイツ語圏の議論の様相を伝えるのが訳者のモチベーションであった。と言っても、ドイツ語圏が非常に特殊というのではなく、基本は概ね広く西洋文化の動向と重なっている。なお訳者はこのテーマには数年来手を染めており、やや詳しくは数編の拙論に委ねたい。そのため、以下は二三の要点に絞る。

1. 《民藝》という術語をめぐる日本と西洋

《民藝》という術語が、1920年代すなわち大正末期から昭和初めに柳宗悦を中心にした民藝運動の人々によって提唱された造語であることはよく知られている。と共に、それは外国の近似した文物にも適用されてきた。《世界の民藝》や《西洋の民藝》といった言い方を民藝関係者が早くからおこなっており、それはマス・メディアでも見受けられる。また具体的な経緯そのものは本質的なことではないが、《民藝》の造語にあたってはドイツ語の *Volkskunst* が意識されていた節がある。英語の *folk art* という言葉がまだできていなかったか、あるいは出始めた時期のことで、日本の識者も聞知しなかった。もっとも、フォーク・アートの語はやや遅れて現れたとしても、民藝にあたるものへの関心そのものは西洋のなかではイギリスが早く、それが（直線的にはないが）他の国々への刺激となった。

なおドイツ語圏の民藝理解の日本への紹介では、本編でも言及されるコンラート・ハームによる1928年（第2版1932 or 1933）の概説書が昭和17年（1942）にゲルマニストの丸山武夫によって『獨逸の民藝』というタイトルで翻訳刊行されており、おそらく今なおこれがまともな唯一の紹介ではないかと思われる。1930年前後のドイツの民藝理解を今日の日本でそのまま受けとるには留意すべき点があるが、学説の流れのなかに置く手続きを講じるなら貴重な資料である。

学史の推移はやや複雑であるが、ここでは起点に触れておきたい。ドイツ語圏の場合、民

藝の理論的把握を切り開いたのは美術史家アロイス・リーグルで、拙訳を供した中編の「民藝・自家作業・家内工業」（原書1894年）がそれである。収集作業が本格化するのもその頃からであった。理論的な考察にも多彩な動きがあり、1920年代には整理の必要が出てきたほどであるが、そのなかで（これも拙訳を供したが）1928年にアードルフ・シュパーマーの「民藝と民俗学」が現れて二つ目の里程碑となった。美術史研究と民俗学の二人の代表者が民藝について原論的な見解を提示したことになり、これが楕円の二つの焦点のようなかたちになって、以後の民藝論議の基礎がつくられた。もとより両者の論説がそのまま繰り返されたわけではないが、そこで表出された幾つかの論点が以後も形を変えて議論の重要な脈絡となっていった。

2. 多岐にわたる民藝論議

ところで、本編を通読しても、もう一つ要領を得ないといった印象が起きるかも知れない。それは西洋と日本ではそれぞれに思考の型のようなものがあることが関係する。その点では文化それぞれの思考の基本形が特にあらわになるテーマとも言える。しかしその前に踏まえておくべきは、民藝への関心が西洋では19世紀後半から末期に顕在化し、日本では20世紀の20年代に形成されたのは、大局的にみるなら、近・現代の趨勢という面で共通したものがあつたと考えられることである。しかしそれをどう理解するかとなると、文化の違いが露わになった。これについては拙論では《極意と分析》という言い方で日本と西洋の比較を試みた。平たく言えば、西洋では議論がさかんになされてきたのである。民藝をめぐることは論客は数え切れないほどで、エルケ・シュヴェート女史のそう大部ではない本編でも百人位の名前が挙げられる。もとよりまったくばらばらではなく、幾つかの系統に整理することはできるが、いずれにせよ絶えず議論がなされてきた。農民工藝としての民藝とか、個性藝術ではなく没個性藝術としての民藝とか、あるいは民藝とキッチンとの関係、さらに階級藝術としての民藝といった議論はその一部である。そもそも民・民衆と民藝との関係をどう見るべきか、さらに民藝は創造か模倣か、先史藝術に遡るのかルネサンス以後か、現代も民藝は生まれているのか否か、といった議論が延々と繰り返された。長期かつ広範ないわばフォーラムであるが、それには美術史研究だけでなく、社会哲学、社会学、藝術社会学、コミュニケーション研究、宗教学、心理学、文化人類学、民俗学、郷土誌研究、そして博物館学の関係者がそれぞれ一家言をたずさえて参加した。《民藝》という概念はフィクションに過ぎず、概念としては成り立たないという見解も昔から見受けられた。また、これも念頭に置いておく方がよいが、ロマン派やヘーゲルなどの古典美学には民藝にあたる概念はなかったのである。

議論が多岐にわたり、また各人がそれぞれ特色あるキーワードを以て臨むために込み入った様相を呈しているが、論客それぞれの主張はさておき、西洋の議論の大きな方向ないしは性格を押さえておく方がよいだろう。私見だが、突きつめると、人間存在における基底とは何か、どこでそれをつかまえることできるのか、見方によれば人間における《自然》とは何か、をめぐって議論は展開したと見ると分かりやすくなる。たとえば、民藝とクラフトとの関係を神経質なまでに問題にしてきたのは西洋の特色である。売買される物品は民藝の範疇に入るかどうか、というのもリーグル以来の基本的な設問で、さまざまに形を変えてその後も現れた。また《民藝》の作り手は《自然工芸家》という見方も、言い方はまちまちながら何度も顔をあらわした。それはまた《職人仕事》は民藝かどうか、という議論へ延びてゆく。さらに、公共の施設（ベルリンの壁だけでなく）へのスプレーでの落書きをも含めてスプレー・グラフィティは民藝にあたるのかどうか、またタトゥーをどう解するのか、あるいはパンク・ルックは、等々の問題も浮上した。逆からみれば、《民藝》の概念を問うことが、ポピュラー・アートを広く射程においた諸問題を論じる上での一つの結節点となったのである。

3. 民藝論におけるエルケ・シュヴェートの位置

本編の論者エルケ・シュヴェート女史の立ち位置は、今日でもまったく過去のものとはなっていない。と言うのは、大衆文化をめぐるアドルノとホルクハイマーの見解が影響を及ぼすなかで、それを組み込む形で考察されたからである。特に《文化産業》すなわち資本による大衆意識の操作と操作される大衆という構図である。もっとも1946年に明示されたその視点が半世紀以上を経た今日でもそのままの形で説得的かどうかは一考の余地があるが、原理論としては否定されはしないだろう。別の面から見ると、資本による文化形成・文化操作もまた大衆ないしは消費者の存在に左右され逆に操作されている面があるが、それをも含んで《文化産業》の機構化は問題性を持ち続けている。またエルケ・シュヴェートが本編を執筆した当時は、階級藝術としての民藝という考え方も有力であったが、それはまた二つの方向に枝分かれしていた。一つは人民藝術の意味で解してポジティブに評価する行き方で、当時はなお存在感を發揮していた社会主義の東ドイツの学問、及びそれとの調整をはかる行き方であった。他方は、民藝は本来階級藝術ではあるが、それを成り立たせていた条件が失われ、それと共に民藝はキッチュに移行してその使命を終えるという見方で、こちらはシュヴェート夫妻と同じチュービンゲン学派のマルティーン・シャルフェが論客であった。すでに翻訳を提供した「民藝のメタモルフォーゼ」（1974年）はその観点による指標的な考察である。

それに対して、シュヴェート夫妻は、文化の制度化・機構化・権威化の隙間を縫って浮上する一定の独自性をもった行為を民藝と考える系譜に位置している。本編において、《創出性》が課題になるのはこれに関係する。またアンケートでも、民藝ないしはそれに類する制作における実作者の職人性の問題を客観的事実と制作者の自己認識の両面から問うているのは、それが理論を組む上で必要なデータと考えられたからである。またそれにあたっては、そうした見方の起点をアードルフ・シュパーマーの民藝論にもとめる共に、それを第二次世界大戦後の大衆社会・大衆文化のなかで探ったヴァルター・ヘーヴァニックの《現下臨機の集団藝術》という着想に注目している。それは民藝をコミュニケーション・システムとしてとらえることでもあり、アードルフとジルバーマンの間で交わされた審美をめぐる議論をも援用しながら、独自の見解を導いた。それが民藝《終焉後の民藝》という言い方で、本編を一口で言えば、これが主張になるだろう。

なお学説のその後の流れに注目すると、エルケ・シュヴェートの考察は、同じくチュービンゲン学派であるゴットフリート・コルフによってさらに整理されることになった。これまた資料として翻訳をすでに供した1984年の論説「今日の民藝？」である。そこでコルフは、アードルフ・シュパーマー、ヴァルター・ヘーヴァニック、シュヴェート夫妻という系譜の延長線上で民藝を論じた。コルフは、文化人類学の知見を民俗学に活かすことを持ち味とする研究者であるが、ここでもそれが顕著にあらわれた。この場合は、1962年に発表されて反響を呼んだクロード・レヴィ=ストロースの《野生の思考》に注目し、文化のなかのその種の思考の発現という形で、シュパーマー以来の見解との接続を図ったのである。コルフの主張は、一言で表すと《ブリコラージュの美学》になるが、それへ至る理論の流れに弾みをつけた直近の成果としてエルケ・シュヴェートの本編は位置づけられた。

4. 民藝に関心を寄せるメンタリティ

最後に訳者の関心を言い添えておきたい。課題は、《民藝》をキーワードとして繰り広げられたドイツ語圏の議論の流れと構図を把握することにある。これが大きなテーマか些末な話題かはともかく、日本ではほとんど紹介がなされていない。そのため共通の土台をつくることも考えなくてはならず、これまで10人余りの論説を翻訳紹介した。いずれも議論の里程碑とみることのできる理論である。その一つとしてエルケ・シュヴェート女史の学位論文を取り上げたのである。はじめにふれたように、分量的にも手ごろで、しかも問題点が凝縮して捉えられている。それが日本では一寸見では分かりやすすくないのも、逆説的だが、西洋の議論の特色を伝えることになる。

訳者の関心は、今挙げた、西洋の議論そのものにある。つまり、何がどう議論されてきた

のか、という筋道そのものへの関心である。逆に、大局的には同じ趨勢でありながら、日本ではそれがどうとらえられたかも見えてくる。従って、文化の比較である。しかしさまざまな理論のいずれもを観察の材料とばかり見ているわけではない。むしろ、そこから問題を解くヒントを得ることができる。その点で注目すべきは、やはりヘルマン・パウジンガーであろう。チュービンゲン学派と呼ばれるドイツ民俗学の一大潮流を作り出した学究で、その理論は一学派の主張と言うより学界が共有する基礎理論となっている。しかしパウジンガーは民藝については正面から論じていない。それには事情があるが、それはともかく、パウジンガーの視点を組みこんで問題をもう一度見直すべきではないかと考えている。

一言で言えば、《民藝》という言葉が関心の正面に立つようになったこと自体を解きほぐす必要性である。民藝にあたるフォルクスクunst (Volkskunst) の語はそう古いものではなく、今のところ初出は1840年代と考えられている。また1890年ころまでは、その意味は定まっていなかった。民族藝術の意味で解されることもあれば、新製品のクラフトを指すこともあった。そうした混乱がアロイス・リーグルによる概念定義の背景であるが、ともあれ19世紀半ばからそうした語が口にされ始めたのである。それはある程度の広がりをもって特定のメンタリティが形成された証しと見ることができる。それを近代や現代の一面というのはやさしいが、近代・現代という予め決まったものがあるわけではない。それぞれの分野の動きから推定される事態への便宜的な呼称である。その中身の仕組みは、民藝とよばれる物品への関心の事実と、それをどう解するをめぐる理論の動向からもさぐることができる。その点では、ドイツ民俗学界において、一時期、民藝論は民俗学の縮図と意識されたのは奇異ではなかった。その問題意識を共有しつつ議論が白熱化しはじめた頃の一作が本編なのである。

思い返すと、シュヴェート夫妻をライン河支流ナーエ川辺バート・クロイツナッハに訪ねたのは2008年のことで、翌年、夫妻の共著『南西ドイツ シュヴァーベンの民俗：年中行事と人生儀礼』の翻訳を刊行した（文緝堂 2009年）。ドイツ民俗学の現代の水準から書かれた年中行事の案内書で、たとえば西洋にとって一年の起点はいつになるのか、という問いから始まるなど方法論的にも興味深いものであった。その後ほどなくヘルベルト・シュヴェート氏は他界された。エルケ・シュヴェート女史は今も健在で時折文通をしている。本編は現今の日本に置き直しても風化しておらず、その紹介は訳者にとっても記念になる仕事であった。

25. April 2020 S. K.